

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 五五三 五五四

五四八

五五三 十二月七日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

五五四 十二月八日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

中国ノ時局ハ鄭開線敷設交渉開始ニ適スルヤ

中国トノ鐵道敷設交渉ハ時局柄其時機ニ非ザ

問合ノ件

ル旨回電ノ件

第九二五号

第一六九五号

新内閣モ愈成立シ鄭家屯開魯線等ノ鐵道交渉ヲ開始シ可然
ヤト考ヘラルルヲ以テ近ク滿鉄ヨリ川上理事ヲ貴地ニ派遣
ノ管ナル趣ノ処目下ノ政局ハ果シテ右ノ計画ヲ実行シ差支
ナキ次第ナルヤ一応貴官ノ意見ヲ承知シタル上ニテ川上ヲ
出發セシメタキニ付御見込ノ程回電アリタシ

貴電第九二五号ニ関シ交通部ヨリ今尚ホ我覚書ニ対シ何等
回答シ来ラサル処昨今ノ時局柄容易ニ埒明カサルベシト認
メラレ從テ具體的商議ニ入ルヘキ時機ニ関シ何等見据附キ
兼ヌルニ付追テ当方ヨリ何分ノ儀申進スル迄川上ノ出發ヲ
見合セシムル様致度シ

事項八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件

五五五 一月一日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

近ク外交總長ニ覚書ヲ提出スベキ旨及本件ニ
關スル所見具申ノ件

第六号

(一月四日接受)

四鄭街道ニ於ケル日本軍隊ノ数及配置狀況報
告ノ件

第一号

客年往電第五二二号ニ関シ四鄭街道ニ於ケル我軍隊ノ数並
配置状態左ノ通
鐵道守備隊ヨリ編成セル四平街附屬地ノ一箇中隊 支那四
平街ノ一箇小隊 八面城ノ一中隊 三江口ノ一箇小隊ニ充
タザル小部隊 鄭家屯ノ一箇中隊及第十七師團ヨリ編成セ
ル二箇大隊(以上ノ内四平街附屬地ノ分竝鄭家屯ノ一箇中
隊ハ鄭家屯問題發生前ヨリ駐屯ノモノナル由)

註 日本外交文書大正五年第二冊八〇五文書

五五六 一月三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯問題解決方法ニ関シ訓令ノ趣旨ニ依リ

存ニ付右様御含置アリタシ尚貴電中一応協議済ノ事項ヲ取

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五五五 五五六

五四九

消シ云々ト有之モ二十三日ノ會議ニ於テ本使ノ提出シタル口上書ニ修正ハ「テンタチーブ」ナル旨ヲ先方ニ於テ留保シタル次第ニ有之又貴電第五五八号(註)警察官駐在ノ件ニ關スル御訓示ノ趣旨ハ多少判明シ難キ節アルモ往電第一一七一号ト対照シテ考慮スルニ我原案ノ如キ口上書ヲ提出スヘキ御趣意ト拝察ス將又案文ニマデ立入りタルハ元來口上書三通ニ對シテハ先方ノ回答ヲ求メントスル当方ノ趣旨ニアラサルモ先方ニテハ是非回答スヘキ旨ヲ主張シ居ルカ故我方ノ単独行為ニテ落著セサルヘキコト明瞭ニ有之旁々先方ニ於テ其ノ可ナリト認ムル修正ヲ試ミタル上成ルヘク折合ハントスルノ精神ニ出テタルモノト認メラル元來本使ニ於テハ飽迄強硬ニ帝國政府ノ主張ヲ十分貫徹シタキ精神ナルコト勿論ナルモ更ニ一步ヲ進メテ深く考慮スルニ本問題ノ交渉不調ノ為増援兵ノ撤退ヲ遷延シ警察官駐在ノ件ヲ事實問題トシテ永ク鄭家屯問題ヲ懸案ト為スカ如キハ實ハ甚々面白カラサル現象ナルカ故帝國軍隊ノ威信ヲ保持シ帝國ノ面目ヲ傷ケサルノ範圍ニ於テ出来得ヘクンバ双方ノ主張ヲ纏メ本問題ヲ円満ニ解決スル方得策ナリト認メタルカ為屢々卑見ヲ上申スルト同時ニ彼我ノ交渉ニ多大ノ苦心ヲ費シ

タル次第ノ如今回ノ御電訓ニ依レハ協定済六項中ノ三件ニ付テモ成ルヘク公文交換ノコトトスル御趣意ノ趣ニテ本使ニ於テハ精々御訓令遂行ニ努ムヘキコト勿論ナルモ今後交渉ノ針路ヲ大体右ノ如キ方面ニ取ルコトトセハ支那側ニ於テ或ハ屈辱ヲ忍ンデ承服スルコトアルヘキモ大局ニ顧ミテ果シテ得策ナリヤ疑ナキ能ハス

註 日本外交文書大正五年第二冊八〇三文書

五五七 一月四日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛

四鄭街道ニ於ケル日本軍隊配置狀態報告ノ件

附屬書 右配置狀態

機密公第一号

(一月八日接受)

大正六年一月四日

在奉天

總領事代理 矢田七太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

本件ニ関シ曩ニ往電第一号ヲ以テ大要及御報告置候次第有之候処今般当地獨立守備第三大隊ヨリ入手致候処ニ依レハ別紙寫ノ通ニ有之候間重ネテ及御報告候条御査閱相願度此

段及稟申候 敬具

(附屬書)

四鄭街道ニ於ケル日本軍隊配置狀態

(寫)

- 旧四平街 一小隊(獨立守備歩兵第三大隊ヨリ派遣)
- 八面城 一中隊(獨立守備歩兵第二大隊ヨリ派遣)
- 曲家店 一分隊
- 三江口 一小隊
- 鄭家屯 一中隊(一小隊欠) 三中隊

一大隊(歩兵第四十一聯隊第三大隊)

騎兵若干(騎兵第二十一聯隊ヨリ派遣)

右ノ外鄭家屯、三江口、八面城ニハ憲兵若干ヲ配備ス

註 配備要図省略

五五八 一月五日

本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

鄭家屯問題交渉ニ對スル訓令中ノ事項ニ付重

ネテ説明ノ件

第七号 至急

貴電第六号及十二月二十六日付機密第三八四号貴信閱悉右

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五五八 五五九

貴電中段ニ依レハ往電第五五八号ノ二(註)訓令ノ意味充分明瞭ナラザリシ趣ノ如当方ノ趣旨ハ大体貴電第一一七一号ノ続末段貴官言明ノ通行政及警察ニ干与セザル旨ヲ明記シ且括弧「」内ヲ削除スルコトトシ即チ前記貴信附屬丙号ノ通ニテ異存ナク其以上ニハ讓歩セザル様致度シト云フニ在リ今更往電第四六二号ノ六末段原案ノ通トスルコトヲ希望シタル次第ニハ非ズ為念

註1 日本外交文書大正五年第二冊七九八文書

2 同右七七五文書

3 同右七七七文書

五五九 一月五日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件ノ解決方法ニ関シ伍外交總長ニ覽

書ヲ交付済及同總長ハ國務會議ニ付議研究ノ

上回答スベキ旨述ベタル件

第一四号

一月五日伍廷芳ニ會見御訓令ノ趣旨ヲ敷衍シタル上往電第六号ノ覽書ヲ交付シタル処伍ハ一読ノ後國務會議ニ附議シテ篤ト研究ヲ遂ケタル上何分ノ回答ヲナスヘキ旨答ヘタリ

右覺書未段ニ於テ我増援軍隊撤退方ニ付本使ニ於テ必要ノ措置ヲ執ル能ハサル旨ヲ附言シタルハ本使ニ於テ御訓令ヲ執行シ支那政府ニ於テ直ニ我カ提議ニ応スルトセハ何等問題ナキモ然ラサル場合ニハ結局増援軍隊ノ撤退ヲ延期スルヨリ致シ方ナキコトナルヘキニ依リ御承認ヲ經スシテ右ノ通取計ヒタル次第ナリ

五六〇 一月七日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

滿鉄付属地内ニ於テ中国警察官ノ中国人逮捕
認許等ニ関シ伍外交総長ヨリノ申出ニ対スル
回答振訓令ノ件

第九号

客年貴電第一一八〇号ニ関シ矢田総領事代理宛客年往電第二一九号ニ対スル在滿当該各領事回電ニテ御承知ノ通伍総長申出ノ(一)ニ関シテハ元則トシテ我方ニ於テ従前南滿鉄道附属地内ニ於テ支那警察官ノ支那人犯罪人ニ対スル逮捕及呼出ヲ認許シタルコトナク伍総長ノ申出ハ事实ニ相違シ何等カノ誤解ナルヘキ旨説示セラレ度ク(二)ニ関シテハ遼中県ノ大興合名会社経営ノ大平農場ニ二名並復州ニ於ケル葦津

本使ハ元來輿論ノ反对ナルモノハ全然誤解ニ基クモノナルヲ以テ政府ニ於テ適當ノ説明ヲ与ヘラルレバ何等差支ナカルベシト考ヘラルト述ヘタルニ段ハ何レ来ル九日ノ國務會議ニ於テ篤ト相談スヘキ旨ヲ答ヘタリ

五六二 一月十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯問題ニ関スル我覺書ニ対シ伍外交総長

回答ノ件

別電 同日在中国林公使宛本野外務大臣宛電報第三九号
鄭家屯問題ニ関スル中国側覺書要領

第三八号

(一月十三日接受)

一月十二日先方ノ請求ニ依リ伍総長ト会见伍ヨリ鄭家屯問題ニ関シ我方ニ対スル回答トシテ要領別電第三九号ノ如キ覺書ヲ提出セリ往電第六号竝一月六日附機密第六号ニテ御承知ノ通未協定ノ三件ニ付テハ御訓示ノ趣旨ニ從ヒ我方ノ irreducible minimum ヲ声明シタル次第ニ付今更先方ノ回答如何ヲ顧ル必要ナク又協定済五項ニ付テハ先方ニ於テ公文ノ交換ヲ承諾シ来レル次第ニ付鄭家屯問題ハ之ニテ落著

経営ノ磁土採掘公司ニ一名ノ請願巡查派出シアルノミナルカ右ハ現在之等地方不安ノ情況ニ顧ミ之ヲ許可シタルモノナル旨回答アリ度ク尚貴官御含念ナルカ右等巡查ハ人民ノ請願ニ基キ派遣セラレ且經費支給ノ方法異ナルモ駐在ヲ必要トスル理由ニ至リテハ勿論普通巡查ト同一ナリ又(三)ニ関シテハ客年往電第三四六号ニテ申進シタル通事件解決ノ曉ニ於テ実行スヘシトノ当方ノ趣旨ニ変更ナキニ付之亦貴官限り御含置アリ度シ

五六一 一月七日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯問題解決方法ニ関シ段総理ニ申入ノ次

第報告ノ件

第二〇号

(一月八日接受)

貴電第五五八号ニ関シ一月七日段総理ニ面会シ一月五日伍総長ニ説明シタルト同様ノ趣旨ヲ述ヘ且一日モ速ク本問題ノ解決センコトヲ希望スル旨附言シテ往電第六号ノ覺書及口上書ノ漢訳文ヲ手交シタルニ段ハ昨日既ニ伍総長ヨリ夫々報告アリタルカ警察官配置問題ノミハ輿論殊ニ議員等ノ反对甚タシク政府ノ最モ困難トスル所ナリト答ヘタルニ付

シタルモノト思考ス尚先方ノ要求セル撤兵ニ付テハ問題發生前ヨリ駐屯セル軍隊ノ分ハ本問題ト関係ナク別ニ論スルコト、シ今ハ単ニ御請求ノ次第ヲ政府ニ報告スルニ止ムベク増援軍隊ハ本問題解決後速ニ撤回スル様取計フベキ旨ヲ答ヘ置キタリ協定済五項ニ関シ交換スベキ公文案ニ付テハ一兩日内ニ先方ヨリ協議アル筈ニテ右協議済ノ後之カ交換ヲ了シタル上商議ヲ遂クルコト、ナルベシ

(別電)

一月十二日林公使宛本野外務大臣宛電報
鄭家屯問題ニ関スル中国側覺書要領

第三九号

伍総長提出覺書要領左ノ通

鄭家屯問題ニ就テハ是迄和衷商議シ本部ト貴公使ト累次會議ヲ重ネタルモ未ダ解決セズ本総長就任以來国交ヲ重ンズルノ見地ヨリ商議ヲ継続シ既ニ再三讓歩シタルニ拘ハラズ貴国政府ニ於テ猶満足トセラレザルハ遺憾ナリ茲ニ再ビ篤ト考慮ヲ加ヘ回答スルコト左ノ如シ

(一)警察官駐在軍事顧問士官学校教官ノ三件ニ就テハ別紙ニテ回答ス

(二)第二十八師團長ノ申飭責任將校ノ処罰及奉天督軍ノ陳謝ノ三件ニ就テハ軍民ニ対スル布告及吉本慰藉金ノ二件ト一律公文ヲ交換スルコトトスベシ

(三)右二項ハ本国政府貴国政府ノ意志ヲ尊重シテ再ビ讓歩ヲ行フモノナルガ貴国政府ニ於テ之ヲ諒トセラレタタク鄭家屯駐在ノ貴国軍隊ニ就テハ予テ撤退ヲ要求シ居ル次第ニテ今回ノ問題モ亦日支兩國軍隊ノ衝突ヨリ起リタルモノニシテ問題發生後貴国ハ又鄭家屯一帯地方ニ増援兵ヲ送ラレタル処右ハ貴国兵包圍襲撃セラルルガ故援助ヲナサントノ目的ニ出デタルモノナルモ此誤解ハ既ニ氷積シタル筈ニテ右軍隊駐屯ノ件ハ鄭家屯問題トハ何等關係ナキ次第ニ付駐屯軍隊ハ一律撤退セラレテ親善ノ証トセラレタシ
別紙三通(以下三通ノ最初ノ部分ハ何レモ我方口上書ノ写ニ付前略トセリ)

口上書一

(前略)一昨年ノ日支条約第五条ニ拠レハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル日本臣民ハ支那警察法令ニ服スルコトトナリ居リ從テ支那警察ハ其保護取締ノ職ヲ実行シ得ル次第ナリ然ルニ今回貴国カ警察官ヲ配置セラレムトスルコトモ亦貴

ラル、コトナク尚支那政府ガ本件ノ実行ヲ承認セリトセラレザランコトヲ

口上書二

(前略)査スルニ奉天督軍公署ニハ既ニ貴国軍事顧問ヲ傭シ居レリ御来示ノ段ハ応サニ閱悉セリ

口上書三

(前略)査スルニ士官学校ハ本国陸軍軍人ニ依リテ教授シ未タ外国人ヲ傭聘シテ教官ト為スノ意嚮ナシ

五六三

一月十三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯問題ニ関スル中国側回答ニ付所見稟申

並我増援兵ノ撤回ヲ迅速実行方稟請ノ件

第四一号

(一月十四日接受)

往電第三八号ニ関シ支那政府今回ノ回答ニ依リ未協定三件ハ書面上ニ於テハ依然未解決ノ儘ニ相違ナキモ我方ノ関スル限り差当リ此儘トナシ置ク次第ナルカ支那政府トシテハ少ナクモ警察官配置ノ件ニ就テハ從來ニ比シ却テ重大ナル責任ヲ負ヒタルモノニテ今後馬賊等ノ行動ニ依リ本邦人ニ何等被害アリタル節ハ我方ヲシテ警察官配置方実行ノ口実

国臣民ノ保護取締ヲ目的トセラル、モノニシテ既ニ条約ノ規定アル以上再ヒ貴国警察官ヲ設ケテ支那警察權ト衝突スルカ如キコトナキヲ可トス昨年十月十八日ノ警察官駐在ニ関スル説明書ニ拠ルモ支那警察權ニ属スルモノモアリ条約ニ規定セラレタルモノモアリ其他領事裁判所執達吏ノ職務ニ属スルモノモアリテ齊ク貴国警察ヲ設クルノ必要ナシ本項ノ警察問題ハ所謂治外法權ナルモノトハ何等關係ナク本国政府ニ於テ当然ノ措置ト認ムル能ハサル所ニシテ各国ト条約締結以來未タ斯ノ如キコトナシ

貴公使累次本項ノ警察ハ支那地方行政及警察權ニ干渉セザル旨声明セラレタリト雖モ本国政府篤ト考量スルニ支那領土内ニ於テ外国警察官ヲ駐在セシムルハ事ノ如何ヲ論セズ支那主權ノ精神及形式上共ニ障害アリ且人民側ニ於テモ誤解ヲ生シ易ク却テ兩國親善ノ妨碍タリ既設ノ警察官駐在所ニ就テハ既ニ政府及地方官ニ於テ累次抗議ヲ提出シ未タ曾テ承認セス口上書中記載ノ貴国警察官配置ノ理由ハ承認シ難ク且本件ハ元來鄭家屯問題ト何等關係ナク貴公使ニ於テモ本件ヲ鄭家屯問題ヨリ引離スノ説ヲ立テラレタルコトモアリシ次第ニ付願クハ貴国政府ニ於テモ再ヒ本件ヲ提議セ

ヲ得セシメタルモノナリ將又協定濟六項ニ付大体我方ノ趣旨ヲ貫徹シタル次第ニテ要スルニ内実ノ所支那側ニ於テ自己ノ非ヲ認メ居ラサル事件トシテハ不満足ナカラ此辺ノ解決ハ余儀ナキ次第ト思考ス而シテ本問題カ既ニ解決シタル以上増援兵ノ撤回ハ成ルヘク迅速ニ之ヲ実行スル方支那側ニ對シ我方ノ威信ヲ加フル所以ト認メラルルニ付右至急御詮議ノ上夫々必要ノ御手配相成リタク尚撤兵期日御決定ノ上ハ我方ヨリ進ンテ支那兵ヲシテ我軍隊ト交代セシムル手段ヲ執リタク其ノタメ中央政府ヨリ地方官ニ予メ然ルヘク訓令セシムル必要有之ニ付旁々成ルヘク早メニ本使ヘ右御電報アリタシ

五六四

一月十三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件ニ関スル公文書其他發表方ニ付中

国側ト打合セタル旨報告ノ件

第四八号

(一月十四日接受)

鄭家屯事件ニ関スル公文書其他發表ノ場合ハ彼我ノ間ニ其發表時日及文書ノ種類等予メ打合セ置クコトトシ夫レ迄ハ勝手ニ發表セサル方然ルヘント思考セラル、旨一月十三日

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五六九 五七〇 五七一

号ハ外交部員ト協定セル鄭家屯事件解決ノ彼我公文案(別電第六二号同第六三号)、口上書案及我増援兵撤回ノ約束ニ関スル交換公文案(別電第六四号同第六五号)ニ付報告セルモノナリ

五六九 一月十七日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件ニ関シ協定セラレタル中国側ノ陳

謝方法ニ付回電ノ件

第六八号

貴電第四三三号ニ関シ陳謝ノ件ハ往電第六三三号ノ通り協定セラレタルモノニシテ右ハ客月二十六日機密第三八四号拙信報告ノ通ナリ就テハ奉天督軍ニ対シ可成自身旅順ニ出張スル様総領事ヲシテ協議セシメラレタク若シ督軍ニシテ強テ自身ノ出張ヲ嫌ヒ代理者ヲ派遣スル意向ナルニ於テハ右代理者ニ於テ往返何レカノ折総領事館ヲ訪問総領事ニ陳謝スル様然ルベク交渉方同総領事ニ御電示相成様致シタシ

註

外務大臣往電第四三三号ニ付テハ前掲五六六文書参照
尚林公使ノ第六三三号ハ省略セルガ同電報中陳謝ニ関スル協定左ノ通

奉天督軍ハ相当ノ方法ヲ以テ陳謝ノ意ヲ表示スルコト但シ

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

守備隊及派遣隊營舎ニ関スル件

大正三年八月中我守備隊鄭家屯ニ到着セシ際達爾罕王府ヲ以テ其宿舍ニ充當セントスルヤ支那地方官憲ハ世合當(目下万源当ト号スル質屋兼蒙古貿易商)所有家屋ノ大部ヲ明ケ渡シ之ヲ我守備隊ニ提供シタルカ大正四年ニ至リ其残部ノ家屋ヲモ徵發セシタメ同店ハ其家屋全部ヲ失ヒ(其敷地二三千坪建物数百坪)營業スルコト能ハサルニ至リシヲ以テ其損失ハ鄭家屯全市ノ商人ノ分担スルコトトナリ商務會會員ハ會費ノ三四倍ニ当ル金額ヲ支出シ其他ノ商人ヨリハ資本ノ大小ヲ論セス門牌捐ノ十五六倍ニ当ル金額ヲ商務會ニ於テ徵集シ總計一万五六千元ノ金額ヲ無利息ニテ同店ニ貸与シ同店ハ家屋ヲ失ヒタル代リニ其金額ヲ自由使用スルコト、相成候然ルニ我陸軍ニ於テハ個人所有ノ家屋ヲ永ク徵發使用スルコトヲ不穩當ト認メタル如ク右家屋ニ対シ家賃トシテ毎月二十五元五角ヲ同店ニ支払ハントセシニ右土地建物ハ合計二三万元ノ価値アルモノニ対シ一ヶ年僅ニ三百元内外ノ家賃ナレハ之ヲ受取ルコトヲ肯セス且商務會ヨリ前記ノ補助ヲ受クルコト、ナリシヨリ其家賃ハ守備隊

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五七一

五五八

関東都督及奉天日本総領事同シク旅順ニ在ルノ時之ヲ行ヒ其ノ方法ハ該督軍ヨリ任意辦理スヘシ

五七〇 一月十七日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

伍外交総長衆議院秘密會ニ於テ鄭家屯問題ノ

成行ヲ詳報ノ件

第七〇号

(二月十八日接受)

伍外交総長ハ議員ノ請求ニ依リ一月十六日ノ衆議院秘密會ニ於テ鄭家屯問題成行ヲ詳細報告シ三通ノ口上書ヲ提示シタルニ議員間ニハ警察官配置ノ件ニ関スル支那側ノ主張ヲ固持スル様希望シタル外何等ノ異論ナカリシ模様ナリ

五七一 一月十七日

在鄭家屯岩村副領事ヨリ
本野外務大臣宛

鄭家屯ニ於ケル我守備隊及派遣隊宿舍ノ家賃

ニ関スル件

機密送第八号

(二月二十日接受)

大正六年一月十七日

在鄭家屯

副領事 岩 村 成 允(印)

ヨリ商務會ニ交付スルコト、ナリ結局守備隊營舎ノ家賃ハ前記金額ノ外ハ鄭家屯全市ノ支那商人ニテ負担シ居ル次第ニシテ右支那商人等ハ其負担ニ対シ不平アル趣ヲ承知致シ居リ候処過日関東都督府經理部二等主計正後藤氏昶氏來館ノ節特ニ本件ニ関シ小官ノ意見ヲ尋ネタルニ付前記ノ事情ヲ述ヘ且一ヶ月数百元ノ家賃ニ相当スル家屋ニ対シ守備隊ヨリ僅ニ二十五元五角ヲ支払ヒ居ルコトハ穩當ナラサル如キヲ以テ今後永ク守備隊ヲ置カレ該家屋ヲ使用セララルル場合ニハ相当ノ家賃ヲ支払ハル、方可然旨申述置候尙大正五年八月鄭家屯事件以來隔離病舎トシテ使用スルタメ現在ノ万源当ノ家屋一間ヲ無料ニテ徵發シ使用シ居リシモ且下旧曆年末ニ際シ右家屋ヲ使用シタキ旨家主ヨリ請求アリタルタメ臨時之ヲ許可シ居レリトノコトニ候

又鄭家屯派遣隊ノ仮駐スル宿舍ハ元洮遼鎮守使公署後路巡防隊歩四營同砲二營等ノ兵舎ナルガ大正五年八月当地事件ノ為メ我陸軍派遣隊入市ノ後鄭家屯ニ於ケル駐防支那軍隊全部ノ退鄭ヲ命スルト同時ニ支那軍用營造物及之ニ附属スル一切ノ物件ヲ一時占有スルコトヲ當時ノ指揮官松村騎兵聯隊長ヨリ遼源県知事靖鳴岐及中央騎兵第二旅第四團長石

五五九

得山ニ對シ請求シ其承諾ヲ得タルモノニシテ爾來我騎兵聯隊及歩兵一ヶ大隊ハ歩四營砲二營騎兵第四團及馬三營ノ兵舎ニ分駐シ居リシモ其後我騎兵隊及歩兵隊ノ一部鄭家屯ヲ去リシヨリ現在使用シツ、アルハ逃遼鎮守使公署及歩砲ノ二營舎ニシテ何レモ家賃ヲ支払ハサルカ此等ノ官庁及營舎并ニ其敷地等ニ就イテハ最初我派遣隊ニ於テハ全部官有物ナリト思考シ居リタルニ支那官憲ニテハ鎮守使吳俊陞ノ私有ナリト稱スルニ付取調ヘタルニ鎮守使公署等ハ吳カ私金ヲ投シテ己カ私有地ニ建築シタルモノニシテ陸軍部ヨリ右家屋ニ對シ一ヶ月六百元ヲ支給シ居リ又第四團兵舎ハ中將石得山ノ所有地ニ商務會ニ於テ兵舎ヲ建築シタルモノニシテ其建物ニ對シ陸軍部ヨリ毎月三百五十元ヲ支給シ居ルモ右ハ全部家賃ナルヤ或ハ建物ハ陸軍部ノ所有ニ帰シ月賦ヲ以テ費用ヲ償還シ居ルモノナルヤ不明ニシテ馬三營ノ分ハ全部吳ノ私有ナルカ如シトノ趣ニ有之今後交渉解決後我軍隊ニ移動アル場合ニハ或ハ問題ヲ生スヘキカト存候尚我陸軍ニ於テハ守備隊ヲ永久存置スルコトニ確定セハ兵營ヲ市外ニ新築スルノ計畫モ有之ヤニ承知致候
右為御參考及報告候 敬具 (地図一葉附圖)

写送附先 在支公使 在奉天總領事
註 地図省略

五七二 一月十八日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件協定事項完全履行ヲ待タズ可成速

ニ我増援兵撤退方稟申ノ件

第七五号 至急

貴電第五二号ニ関シ協定事項全部現実ニ実行セラルルヲ待チ増援隊ノ撤去ヲ実行セラルル御決心ナル趣ニ付テハ本使ニ於テ深ク之ヲ遺憾トセザルヲ得ズ元來増援隊ナルモノハ事件發生ノ當時救援ヲ目的トシテ臨時派遣セラレタルモノニテ全然一時的の応急ノ措置タリ從ツテ早キニ臨ンテ之ヲ引揚グヘキ性質ノモノタルハ今更申上グル迄モナシ今回完全トハ稱シ難カルベキモ兎ニ角漸ク支那側トノ協定成立シタル以上仮令支那側ヨリノ要求ナシトスルモ帝國政府ニ於テ自動的ニ増援隊ヲ撤退セラルルコソ外交ノ妙味ヲ發揮スル次第ト存ズ然ルニ各条項ノ完全且現実ニ実行セラル、節迄撤去シ難シトノ態度ヲ採ルニ於テハ支那側ヲシテ再ヒ痛恨ヲ抱カシムルノミナラズ抑何等合法ノ根拠ナキ事件發生以

上結果御電訓ヲ請フ

五七三 一月十八日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件解決ニ関スル新聞論調報告ノ件

第七八号

(二月十九日接受)

一月十六日ノ衆議院秘密會ニ於テ外交當局ヨリ鄭家屯交渉結末ノ報告アリタル前後ヨリ其内容ノ幾分ハ世間ニ知レ渡リ之カ為メ關係二三省ヨリ質問的電報アリ之ニ對シ伍總長ハ夫々人ヲ派シ説明セシムル筈ノ趣伝ヘラルル外二三新聞ノ不滿ヲ洩シタルモノアリ十七日ノ覺報ハ請フ看ヨ辱國喪權ノ交渉案ト題シ警察權問題ヲ懸案トシ且既設ノ警察署ヲ撤廢セシメザリシヲ遺憾トシ又其時評欄ニ於テ輿望ノ期待ヲ負ヒタル伍總長ノ外交手腕ヲ疑ヒ京津時報モ亦鄭家屯交渉前途ノ失望ト題シ國民ハ深ク伍總長ニ期待セルニ警察軍事顧問ハ日本ノ要求ヲ承認スルニ至ラザルモ其他謝罪処罰賠償等承認ニ失望シ國民公報モ亦教習顧問警察權問題等兩國國際間ニ多数ノ懸案ヲ添ヘタルヲ不滿ナリトシ又十八日ノ公言報ノ如キハ鄭家屯案ヲ評スト題スル論說ヲ掲ゲ各省官民抗争ノ電報アリシニ拘ハラズ遂ニ謝罪処罰慰藉等承認

前ヨリノ駐兵並漢口ニ於ケル兵營等ト相待テ新知識ヲ有スル支那人乃至歐米人ヲシテ益々本邦ニ對スル疑念ヲ深カラシムヘキハ明瞭ニ有之米國人ノ如キハ其手段穩當公正ナルガ為メ本国ニ於ケル支那排斥法案ノ現存セルニ拘ラズ當國上下ノ同國ニ對スル信頼ノ鞏固ナル次第ハ管テ上申セシ通ニ有之支那ニ對シテハ日米素ヨリ其關係ヲ異ニスト雖國交ノ進退ハ同一ナリ今仮リニ支那側ニ於テ協定ヲ実行セズトセムカ其場合ニ追ビ我立場ハ寧ろ良好トナリ支那側ヲ詰責シテ更ニ要求ヲ提出シ得ベキ道理ナリ從ツテ条件不履行ノ如キハ今ニ於テ何等顧慮スル必要ナシト思考ス若シ夫レ増援隊撤退方ヲ遷延シテ何等我方ニ利アリトセバ勿論本使ニ於テ直ニ御訓令ニ服從スベキモ害アリテ益ナキコト顯然タルノミナラズ抑モ對支外交ニ新生活ヲ開カントセラルル帝國政府ノ御趣旨トハ一致セザル様思考セラルルニ付敢テ一言ヲ呈スル次第ナリ從ツテ帝國政府ニ於テ具ニ微意ノ存スル所ヲ酌マレ速ニ撤退方御決心相成ルニ於テハ兩三日ニテ上奏御裁可ヲ仰グコトヲ得ベク旁日取ハ大略ノ所ニテモ差支ナシト認メラルルニ付速ニ早日引上ゲノコトニ御決定ノ上支那側ニ通告スル様致シタシ就テハ至急重ネテ御詮議ノ

ノ已ムナキニ至リ併モ問題ヲ懸案ト(脱)ガ政府ハ尚極力交渉ノ結果ナリト國民ニ弁解ス失敗痛恨ハ固ヨリ言フ迄モナキガ弱肉強食敢テ之ヲ日本人ニ責ムル能ハス当局者ガ喪權辱國ノ罪寬假シ難キモ要スルニ我國民自ラ責ムヘキノミ今日ノ鄭家屯案ハ止ムモ將來ノ鄭家屯案ハ幾許アルヲ知ラス國民モ早ク政争ヲ止メ内政ヲ整理シテ外交後援ノ実力ヲ養成セザルベカラズト云ヘリ

五七四 一月十九日 本野外務大臣ヨリ
在中國林公使宛(電報)

鄭家屯事件ニ関シ中國側ニ於テ協定事項全部履行ノ上我が増援隊ヲ撤退スヘキ旨ノ公文交換方回訓ノ件

別電 同日本野外務大臣発在中國林公使宛電報第六一
号 増援隊撤退ニ関スル日本側回答公文案

第六〇号

往電第五二号及貴電第七五号ニ関シ増援隊撤退ニ関スル必要ナル手續ハ至急取運フコトトシ一兩日中ニハ完了セシメ得ヘキ見込ニシテ支那側ニ対シ我真意ニ対スル疑念ヲ除キ

ケル帝國軍隊撤退方ニ付本日付貴翰ヲ以テ御來照ノ趣致敬承候帝國政府ハ鄭家屯事件ニ関スル今回協定済五項ノ全部現実ニ履行セラルルヲ待チ曩ニ鄭家屯事件ノ發生ニ關聯シテ該方面ニ増派シタル帝國軍隊ヲ直ニ全部撤退スルノ意思ニ有之候間右様御承知相成度此段回答得貴意候 敬具

五七五 一月二十日 本野外務大臣ヨリ
寺内總理大臣宛

鄭家屯方面増遣隊撤退ニ関シ陸軍当局ニ訓達

方稟申ノ件

政機密送第一三号

鄭家屯方面増遣隊撤退方ノ件ニ関シ林在支公使ヨリ本大臣宛電信第七五号ヲ以テ意見申越候次第ハ御承知ノ通ニ有之候処右ニ対シ別紙甲号及乙号写ノ通回訓致置候就テハ關東都督ヲシテ右回訓中段所載ノ通在支公使ヨリ通報接手次第撤兵ヲ実行セシムルコトトシ之ニ必要ナル手配ヲ予メ講セシメ置ク様陸軍當該部局へ御訓達置相成度此段及稟申候也

註 別紙甲号及乙号写ハ前出一月十九日本野外務大臣發林公使宛電報第六〇号及第六一号写ナリ

安心ヲ与フルノ要アルハ貴見ノ通ナルニ付貴電第六四号支那側來照ニ対シ貴電第六五号ノ回答ノ代リニ別電第六一號ノ如キ回答公文ヲ發シ貴電第六一號統中段ノ通右公文二三通ヲ發表スルコトセラレ差支ナシ尤撤退時期ハ御意見ノ次第アルモ支那側ニ於テ協定事項履行ノ誠意アラハ数日間ニテ全部履行完了スヘキ筈ナルニ付別電記載ノ通矢張協定事項全部履行ノ上下致シ度ク當該軍憲へハ右履行完了ノ旨貴官ヨリ關東都督へ通報アリ次第直ニ撤退ヲ実行シ得ル様手配セシメ置クヘキニ付右様御承知アリタシ

貴電第六二号及第六三号公文交換ハ概ネ何日頃行ハル、御見込ナリヤ尚交換公文ヲ發表スル際ハ署名及名宛ハ凡テ一昨年日支交渉ノ際ノ例ニ倣ヒ往翰ハ日本帝國特命全權公使男爵林權助支那共和国外交總長伍廷芳殿及來翰ハ其反對トスル考ニ付御含アリタシ

(別電) 一月十九日本野外務大臣發林公使宛電報
増援隊撤退ニ関スル日本側回答公文案

別電第六一號

以書翰致啓上候陳者四平街ヨリ鄭家屯ニ至ル沿道一帶ニ於

五七六 一月二十一日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯守備隊增加方ニ関スル高山陸軍少將ノ

意見ニ同調シタルニ付報告ノ件

第三号

關東都督府陸軍部參謀長高山陸軍少將ハ守備隊司令官福原陸軍少將ト共ニ一月十八日当地ニ來リ各兵營其他ノ情況ヲ視察セリ參謀長ハ本官ニ対シ当地事件ニ関スル日支交渉解決スルトキハ派遣隊ヲ撤退シ守備隊ハ従前ノ通存置スルコトトナルベキガ其兵數ハ故ノ一個中隊ニテハ不足ナルガ故ニ一個大隊トシタキ希望ナリシガ今回視察ノ結果益々其必要ヲ認メタリ併シ一個大隊ト為スモ一般ノ感情其他ニ支障ナカルベキヤト問ヒ且本官ノ意見ヲ尋ネタルニ付本官ハ一個中隊モ一個大隊モ支那人ノ感情ニハ何等差異ナカルベキノミナラズ当地地方ニハ時々蒙匪馬賊跳梁スルコトアリ又指定鐵道敷地及「ペインタラ」開魯方面ニ於テ日本人ノ計畫スル大規模農業又ハ曹達事業等其緒ニ就クトキハ多數日本人入込ムベキ見込ニテ未開ノ土地柄如何ナル事件ヲ生スルヤモ計リ難ク且支那人ニ対シテハ恩威併ヒ行フノ必要アル

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五七七 五七八 五七九 五八〇
ニ付其輕侮ヲ招カザル様差支ナキ限り多数ノ守備兵ヲ置カ
レタキ希望ナル旨ヲ答ヘ置キタリ御参考迄ニ申進ス

五七七 一月二十一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件解決ニ関スル彼我往復文書ニ関ス
ル協定成リ中国側ヨリ一月二十二日公文交換
シタキ旨申出ノ件

第八六号

(一月二十一日接受)

往電第六一^(註)号ニ関シ支那側ニテハ再び國務院ト協議ノ結果
我修正案ハ全部其儘承認スルモ同時ニ支那側公文案即チ往
電第六四号中(鄭家屯問題ハ今般結了シタルニ就テハ)ヲ
削除スルコトトシ右ニテ一月二十二日午後公文交換ヲ行ヒ
タキ旨一月二十一日外交部ヨリ通知シ来レリ右削除ノ理由
ヲ尋ネタルモ右ハ全然支那側内部ノ事情ニ因ルモノニテ説
明出来難シトノコトナリ余リ重要ナルコトニモ之ナキ故承
認ヲ与ヘ置キタルニ付右様御承知ノ上然ルベク御訂正相成
タシ尚本件公文書公表ノ時日ハ二日以前ニ支那側ニ通知ス
ルコトニ打合セアルニ付其御含ヲ以テ御確定次第御電報ヲ
乞フ

鄭家屯我派遣隊引揚等ニ関スル今後ノ処置ニ

付電報方稟請ノ件

第四号

一月二十一日午後当地派遣隊ヨリ聞ク所ニ依レハ日支交渉
解決ノ条件ヲ其ノ筋ヨリ内報シ来リ且派遣隊引揚ケノ命令
発セラレタル旨電報ニテ通知ニ接シタル由又支那官憲モ此
種ノ情報ヲ得タル由ニ付右ノ実否及陸軍側ト御打合アリタ
ル派遣隊撤退等ニ関スル今後ノ処置小官心得迄ニ電報アリ
タク尚憲兵隊引揚ケノ命令発セラレタルヤ否ヤハ不明ナル
モ当館警察署ハ常ニ憲兵隊ト協力シ居レルコト十二月十日
(不明)第二号ヲ以テ報告セル通りニ付引続キ当地ニハ將
校以下数名三江口ニハ二三名ヲ存置セラレンコトヲ希望ス
ルニ依リ其ノ筋ニ御転達ヲ請フ

右ハ十九日当地滞在中ナリシ高山參謀長福原司令官ヘモ申
出置キタリ

五八一 一月二十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件解決公表日取及公表範圍ニ関スル

中国側ノ申出ニ付請訓ノ件

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五八一 五八二

五八〇

註 林公使來電第六一号ニ関シテハ前掲五六八文書註参照

五七八 一月二十二日 本野外務大臣ヨリ
在鄭家屯岩村副領事宛(電報)

鄭家屯守備隊増員ノ希望ヲ我陸軍官憲ニ述ブ
ルコトヲ避クベキ件

第六号

貴電第三号ニ関シ軍隊増減ノ問題ノ如キハ事帝國政府大局
ノ政策ニ関係シ一地方ノ情況ノミヲ以テ決定スヘキモノニ
非ザルニ付將來貴官ニ於テ仮令一己ノ私見タリトモ守備隊
増員ノ希望ヲ陸軍官憲ニ通セラル、カ如キコトハ避ケラレ
タシ

五七九 一月二十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件ニ関スル公文交換済ノ件

第九一号 至急

一月二十二日午後四時鄭家屯事件ニ関スル公文ニ通無滞交
換ヲ了セリ

五八〇 一月二十二日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

第九二号

鄭家屯事件公表日取ニ関シ支那側ヨリ支那新聞ハ陰曆正月
ノ為大部分本月二十七日迄休刊スルニ付二十七日ニ公表ス
ルコト、致シタキ旨申出アリ尚一月五日日本使ヨリ外交総長
ニ手交セル覚書(機密第六号参照)及右ニ対スル先方覚書
(機密第一四号参照)ハ最初發表セサルコトニ打合セ置キ
タルモ其後其内容ニ関シ大体会会秘密会ニ於テ説明シ置キ
タル關係モアリ公文及口上書ト共ニ公表シタキ旨申出タリ
右ニ対シテハ本使ヨリ其必要ナルヘキコトヲ説明シタル
モ先方ニ於テハ前陳ノ關係上是非公表シタシトノ達テノ希
望ナリ否拒スヘキ理由モナキニ付御同意相成様致シタシ以
上二点ニ関シ至急何分ノ回電ヲ請フ

五八二 一月二十三日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

鄭家屯事件解決公表日取及公表範圍ニ関シ回

訓ノ件

第六八号 至急

貴電第九二号ニ関シ公表日取ハ二十七日ニテ異存ナシ覚書
ハ何レモ公表セザルコトトシテ既ニ凡テノ手續ヲ履ミアリ

五六五

今更變更スルコト困難ナルノミナラズ其内容殊ニ貴官ヨリ外交総長ニ手交ノ分ハ措辞直截ニ過キ之ヲ公表スルニ於テハ兩國ノ親善ニ関シ内外ニ疑惑ヲ生ゼシムルノ虞アリ兩國ノ為斉シク不利益ナリト思考スルニ付右ハ既ニ打合済ノ通何レモ「コミュニケ」中ニ加ヘザルコトト致度シ就テハ右至急支那側ニ御懇談相成度シ

五八三 一月二十三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

中国側方鄭家屯事件關係書公表方申出デタル事情ニ関スル観測報告ノ件

第九三三

(一月二十四日接受)

往電第九二二号ニ関シ支那側ヨリ俄ニ覚書公表方申出ヅルニ至リタルハ一月五日日本使ヨリ先方ニ交付セル分ニ増援隊ニ関スル言明アルニ願ミ今回我カ主張通協定済事項ニ付公文交換ヲ承諾セルハ已ムヲ得サルニ出タル措置ナルコトヲ国民ニ知ラシメ其ノ攻撃ヲ避ケントノ趣旨ニ基クモノト認メラレ尚公文中ニ協定事項ハ前任総長ト累次會議ノ結果ニシテ討議ノ余地ナシ云々ト記スルコトトナシタルモ同一趣旨ニ基クモノニテ要スルニ伍廷芳ニ於テ成ルヘク自己ノ責任

關東	間島	第六号	間島各分館
チ、ハル	遼陽	第六号	間島宛往電
農安	牛莊	第九号	其他ノ各領事
鐵嶺	綏化	第四号	上海宛往電
安東	海龍	第四号	第二号
芝罘	龍口	第四号	

(附屬書)

新聞ニ公表セル鄭家屯事件交渉結了顛末書

大正六年一月二十七日公表

鄭家屯事件ニ関シテハ在支帝國公使ヨリ支那政府ヘ交渉中ナリシ処今般左記ノ通商議結了セリ

一、一月二十二日帝國公使ト支那外交総長トノ間ニ左ノ公文ヲ交換セリ

(帝國公使發外交総長宛公文)

以書翰致啓上候陳者鄭家屯問題ニ関シテハ貴総長御就任以前既ニ本使ト貴部トノ間ニ屢次會議ノ末議定セル左記各項ニ対シ更ニ字句ノ修正ヲ加ヘ此上討論ノ余地無之候間右様御承知相成度此段照會得貴意候 敬具

大正六年一月二十二日

日本帝國特命全權公使男爵 林 權助

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五八四

ヲ輕カラシメントノ魂胆ニ出デタル次第ト察セラレ

五八四 一月二十七日 本野外務大臣ヨリ
在歐米各大使、在中國各領事他宛

鄭家屯事件交渉結了顛末書送付ノ件

附屬書 新聞ニ公表セル右交渉結了顛末書

政令第二八号

在歐米各大使

在支各領事(分館ヲ含ム)宛

在香港 高橋總領事代理

政令第九号 在旅順 中村關東都督

鄭家屯事件交渉結了ノ件

鄭家屯事件交渉結了ノ次第八大要 (關東都督ヘハ) 二月二十五日 往電第×号ヲ以テ及通報置候処右往電後段所載ノ通本日当方ニ於テ新聞ニ公表セル右交渉結了顛末書ハ別紙ノ通

ニ有之候ニ付前記往電末段所載詳報ニ代ヘ右茲ニ及御送付候間御査閱相成度此段申進候也

註 往電第×号ノ所ヘ記入ノ番号左ノ通

露 第五一号 上海 第二号 長春 第四号

他ノ大使 在露大使宛 奉天 第一〇号 哈爾濱 第九号

往電第五一号 新民府 第三号 吉林 第五号

鄭家屯 第八号

支那共和国外交総長 伍廷芳殿

左記

一、第二十八師團長ヲ申飭スルコト

二、責任アル支那士官ハ法律ニ照ラシテ夫々処罰シ嚴重ニスヘキモノハ当然之ヲ嚴重ニスルコト

三、日本臣民雜居区域内ニ於ケル日本軍民ハ相当礼遇スヘキ旨一般軍民ニ出示告諭スルコト

四、奉天督軍ハ相当ノ方法ヲ以テ陳謝ノ意ヲ表示スルコト但シ關東都督及奉天日本總領事同シク旅順ニ在ルノ時之ヲ行ヒ其ノ方法ハ該督軍ヨリ任意辦理スヘシ

五、日本商人吉本ニ慰藉金五百弗ヲ給与スルコト

以上

(外交総長發帝國公使宛公文(訳文))

以書翰致啓上候陳者鄭家屯問題ニ関シテハ本総長就任以前既ニ貴公使ト本部トノ間ニ屢次會議ノ末議定セル左記各項ニ対シ更ニ字句ノ修正ヲ加ヘ此上討論ノ余地無之旨御來照ノ趣致敬承候茲ニ會議録及關係書類ニ査拠スルニ御來示ノ通りニ有之候間右様御承知相成度此段回答得貴

五六七

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五八四

意候

中華民國六年一月二十二日

支那共和国外交総長 伍廷芳

日本帝国特命全權公使男爵 林 權助殿

左記

一、第二十八師団長ヲ申飭スルコト

二、責任アル支那士官ハ法律ニ照ラシテ夫々処罰シ敵

重ニスヘキモノハ当然之ヲ嚴重ニスルコト

三、日本臣民雜居区域内ニ於ケル日本軍民ハ相当礼遇

スヘキ旨一般軍民ニ出示告諭スルコト

四、奉天督軍ハ相当ノ方法ヲ以テ陳謝ノ意ヲ表示スル

コト但シ関東都督及奉天日本総領事同シク旅順ニ

在ルノ時之ヲ行ヒ其ノ方法ハ該督軍ヨリ任意辦理

スヘシ

五、日本商人吉本ニ慰藉金五百弗ヲ給与スルコト

以上

二、一月二十二日帝国公使ト支那外交総長トノ間ニ左ノ公

文ヲ交換セリ

(外交総長發帝国公使宛公文(訳文))

付セリ

(帝国公使發外交総長宛口上書)

帝国政府ハ支那国政府ニ於テ同国士官学校教官トシテ日本国將校若干名ヲ傭聘セラレンコトヲ希望ス右ハ将来滿蒙地方ニ派遣セララルヘキ支那国士官ノ養成ヲ幫助シ以テ日支親善ノ精神ヲ能ク該士官等ニ徹底セシメ永ク滿蒙地方ニ於テ今回ノ鄭家屯事件ノ如キ不祥事發生ノ禍根ヲ絶タントスル趣旨ニ出ツルモノナリ惟此事貴國ノ軍政ニ関シ帝国政府ニ於テ之ヲ強フルニ便ナラサルヲ以テ貴国政府ニ於テ任意斟酌セラレタシ

右ニ對シ一月十二日支那外交総長ヨリ左ノ口上書ヲ帝国公使ニ交付セリ

(外交総長發帝国公使宛口上書(訳文))

一月五日付口上書ニ依レハ

「帝国政府ハ支那国政府ニ於テ同国士官学校教官トシテ日本国將校若干名ヲ傭聘セラレンコトヲ希望ス右ハ将来滿蒙地方ニ派遣セララルヘキ支那国士官ノ養成ヲ幫助シ以テ日支親善ノ精神ヲ能ク該士官等ニ徹底セシメ永ク滿蒙地方ニ於テ今回ノ鄭家屯事件ノ如キ不祥事發生ハ 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五八四

五六八

以書翰致啓上候陳者四平街ヨリ鄭家屯ニ至ル沿道一帶ニ於ケル貴国派駐ノ軍隊ハ何日ヨリ撤退ヲ開始シ何日ニ至リ悉ク撤退ヲ終了スルヤ詳細御回示相成度此段照會得貴意候 敬具

中華民國六年一月二十二日

支那共和国外交総長 伍廷芳

日本帝国特命全權公使男爵 林 權助殿

(帝国公使發外交総長宛公文)

以書翰致啓上候陳者四平街ヨリ鄭家屯ニ至ル沿道一帶ニ於ケル帝国軍隊撤退方ニ付本日付貴翰ヲ以テ御來照ノ趣致敬承候帝国政府ハ鄭家屯事件ニ関スル今回協定済五項ノ全部現実ニ履行セラルルヲ待チ曩ニ鄭家屯事件ノ發生ニ關聯シテ該方面ニ増派シタル帝国軍隊ヲ直ニ全部撤退スルノ意思ニ有之候間右様御承知相成度此段回答得貴意候 敬具

大正六年一月二十二日

日本特命全權公使 林 權助

支那共和国外交総長 伍廷芳殿

三、一月五日帝国公使ヨリ左ノ口上書ヲ支那外交総長ニ交

生ノ禍根ヲ絶タントスル趣旨ニ出ツルモノナリ惟此事貴國ノ軍政ニ関シ帝国政府ニ於テ之ヲ強フルニ便ナラ

サルヲ以テ貴国政府ニ於テ任意斟酌セラレタシ

ト有之処査スルニ士官学校ハ本国陸軍軍人ニ依リテ教授

シ未タ外国人ヲ傭聘シテ教官ト為スノ意嚮ナシ

四、一月五日帝国公使ヨリ左ノ口上書ヲ支那外交総長ニ交付セリ

(帝国公使發外交総長宛口上書)

支那国政府ハ南滿洲ニ於テ外国ヨリ軍事顧問ヲ傭聘セントスルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スヘキ旨南滿洲及東部内蒙古ニ関スル日支条約附屬民國四年五月二十五日付公文ヲ以テ聲明セラレタル処日本軍事顧問ノ傭聘ハ兩國軍事官憲間ニ意思ノ疏通ヲ図リ相互ノ誤解ヨリ生スルコトアルヘキ諸種ノ事端ヲ予防スルノ目的ニ對シテモ亦資スル所多キヲ疑ハス從テ帝国政府ハ南滿洲ニ於テ軍事顧問トシテ陸統日本將校ノ傭聘セラレンコトヲ希望ス惟此事貴國ノ軍政ニ関シ帝国政府ニ於テ之ヲ強フルニ便ナラサルヲ以テ貴国政府ニ於テ任意斟酌セラレタシ

右ニ對シ一月十二日支那外交総長ヨリ左ノ口上書ヲ帝国公

五六九

使ニ交付セリ

(外交総長發帝國公使宛口上書(訳文))

一月五日付口上書ニ依レハ

「支那国政府ハ南滿洲ニ於テ外国ヨリ軍事顧問ヲ僱聘セ
ントスルトキハ最先ニ日本人ヲ僱聘スヘキ旨南滿洲及東
部内蒙古ニ関スル日支条約附属民国四年五月二十五日付
公文ヲ以テ声明セラレタル処日本軍事顧問ノ僱聘ハ兩國
軍事官憲間ニ意思ノ疏通ヲ図リ相互ノ誤解ヨリ生スルコ
トアルヘキ諸種ノ事端ヲ予防スルノ目的ニ対シテモ亦資
スル所多キヲ疑ハス從テ帝國政府ハ南滿洲ニ於テ軍事顧
問トシテ陸統日本將校ノ僱聘セラレントヲ希望ス惟此
事貴国ノ軍政ニ関シ帝國政府ニ於テ之ヲ強フルニ便ナラ
サルヲ以テ貴国政府ニ於テ任意斟酌セラレ度シ」

ト有之処查スルニ奉天督軍公署ニハ既ニ貴国軍事顧問ヲ僱
聘シ居レリ御来示ノ段ハ応ニ閱悉セリ

五、一月五日帝國公使ヨリ左ノ口上書ヲ支那外交総長ニ交
付セリ

(帝國公使發外交総長宛口上書)

南滿洲及東部内蒙古ニ関スル日支条約施行ノ結果トシテ
ラルル如キ場合ニハ帝國政府ニ於テ必要ニ応シ之ヲ実行
スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ茲ニ声明ス
右ニ対シ一月十二日支那外交総長ハ左ノ口上書ヲ帝國公使
ニ交付セリ

(外交総長發帝國公使宛口上書(訳文))

一月五日付口上書ニ依レハ

「南滿洲及東部内蒙古ニ関スル日支条約施行ノ結果ト
シテ将来該地方ニ於ケル帝國臣民ノ数増加スルニ至ル
ヘク從テ帝國政府ニ於テ之カ取締及保護ノ為警察官駐
在所ヲ該地方ニ増設スルヲ必要トスル次第ハ客年十月
十八日帝國公使ヨリ陳前任外交総長ヘ手交シタル口上
書ニ詳記セル通ナルカ若シ帝國政府ニ於テ本件要求ヲ
撤回スルコトトセハ将来該地方ニ於ケル帝國臣民ノ居
住来往ニ対シ多大ノ不安ヲ与フルノミナラス帝國臣民
ト支那国官民トノ間ニ事端ヲ滋生シ延イテ重大ナル紛
糾ヲ惹起スルニ至ルヘキハ疑ヲ容レス蓋帝國政府ハ自
国臣民ニ対シ必要ノ保護ヲ与フルノ義務ト取締ヲ行フ
ノ權利トヲ有スルカ故此種事態ノ發生ヲ默視シ難キノ
ミナラス日支兩國国交ノ円満ヲ期スルノ見地ヨリ亦之

将来該地方ニ於ケル帝國臣民ノ数増加スルニ至ルヘク從
テ帝國政府ニ於テ之カ取締及保護ノ為警察官駐在所ヲ該
地方ニ増設スルヲ必要トスル次第ハ客年十月十八日帝國
公使ヨリ陳前任外交総長ヘ手交シタル口上書ニ詳説セル
通ナルカ若シ帝國政府ニ於テ本件要求ヲ撤回スルコトト
セハ将来該地方ニ於ケル帝國臣民ノ居住来往ニ対シ多大
ノ不安ヲ与フルノミナラス帝國臣民ト支那国官民トノ間
ニ事端ヲ滋生シ延イテ重大ナル紛糾ヲ惹起スルニ至ルヘ
キハ疑ヲ容レス蓋帝國政府ハ自国臣民ニ対シ必要ノ保護
ヲ与フルノ義務ト取締ヲ行フノ權利トヲ有スルカ故此種
事態ノ發生ヲ默視シ難キノミナラス日支兩國国交ノ円満
ヲ期スルノ見地ヨリ亦之カ予防ノ手段ヲ尽スノ義務ヲ有
スル次第ナリ

帝國警察官ノ該地方駐在ハ畢竟領事裁判權ニ伴フ当然ノ
措置ニシテ毫モ支那国ノ主權ヲ侵害スルモノニアラサル
ハ勿論之カ為日支兩國官民ノ關係ヲ良好ナラシメ兩國經
済關係ノ發展ニモ貢獻スル所尠カラサルヘキヲ以テ帝國
政府ハ支那国政府ニ於テ之ニ同意ヲ表セラルヘキヲ確信
スト雖若シ支那国政府ニシテ之ニ同意ヲ与フルヲ躊躇セ

カ予防ノ手段ヲ尽スノ義務ヲ有スル次第ナリ
帝國警察官ノ該地方駐在ハ畢竟領事裁判權ニ伴フ当然
ノ措置ニシテ毫モ支那国ノ主權ヲ侵害スルモノニアラ
サルハ勿論之カ為日支兩國官民ノ關係ヲ良好ナラシメ
兩國經濟關係ノ發展ニモ貢獻スル所尠カラサルヘキヲ
以テ帝國政府ハ支那国政府ニ於テ之ニ同意ヲ表セラル
ヘキヲ確信スト雖若シ支那国政府ニシテ之ニ同意ヲ与
フルヲ躊躇セラルル如キ場合ニハ帝國政府ニ於テ必要
ニ応シ之ヲ実行スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ茲ニ
声明ス」

ト有之処查スルニ日支新条約ニ依リ日本臣民ハ南滿洲ニ
於テ居住来往シ商業ヲ經營シ竝東部内蒙古ニ於テ支那
国臣民ト農業及附随工業ヲ合辦スルヲ得ルコトトナリ而
シテ支那政府ハ日本臣民ノ数漸次増加スヘキヲ予想シタ
ルカ故該条約第五条ニ依レハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケ
ル日本臣民ハ支那警察法令ニ服スルコトトナリ居リ從テ
支那警察ハ其保護取締ノ職ヲ実行シ得ル次第ナリ然ルニ
今回貴国カ警察官ヲ配置セラレントスルコトモ亦貴国臣
民ノ保護取締ヲ目的トセラルルモノニシテ既ニ条約ノ規

定アル以上再ヒ貴国警察官ヲ設ケテ支那警察權ト衝突スルカ如キコトナキヲ可トス昨年十月十八日ノ警察官駐在ニ関スル説明書ニ拠ルモ支那警察權ニ属スルモノモアリ条約ニ規定セラレタルモノモアリ其ノ他領事裁判所執達吏ノ職務ニ属スルモノモアリテ齊シク貴国警察ヲ設クルノ必要ナシ本項ノ警察問題ハ所謂治外法權ナルモノトハ何等關係ナク本國政府ニ於テ当然ノ措置ト認ムル能ハサル所ニシテ各國ト条約締結以來未タ斯ノ如キコトナシ貴公使累次本項ノ警察ハ支那地方行政及警察權ニ干渉セサル旨声明セラレタリト雖モ本國政府篤ト考量スルニ支那領土内ニ於テ外國警察官ヲ駐在セシムルハ事ノ如何ヲ論セス支那主權ノ精神及形式上共ニ障害アリ且人民側ニ於テモ誤解ヲ生シ易ク却テ兩國親善ノ妨害タリ既設ノ警察官駐在所ニ就テハ既ニ政府及地方官ニ於テ累次抗議ヲ提出シ未タ曾テ承認セス口上書中記載ノ貴国警察官配置ノ理由ハ承認シ難ク且本件ハ元來鄭家屯問題ト何等關係ナク貴公使ニ於テモ本件ヲ鄭家屯問題ヨリ引離スノ説ヲ立テラレタルコトモアリシ次第ニ付願クハ貴国政府ニ於テモ再ヒ本件ヲ提議セラルルコトナク尚支那政府カ本件ノ

実行ヲ承認セリトセラレザランコトヲ

(備考) 右回答中所載ノ支那政府主張ニ對スル帝國政府ノ見解及態度ハ既ニ前頭帝國公使ノ口上書中ニテ聲明セリ

六、支那政府ハ帝國公使ニ對シ同國政府ニ於テ將來奉天省長衙門ニ日本人警察顧問ヲ増聘スルノ意思アル旨言明シタリ

五八五 三月九日 在海竜古沢分館主任ヨリ 本野外務大臣宛

我滿洲駐屯軍ノ演習ハ滿蒙内地ニ於テスルヲ有益トスベキ旨具申ノ件

機密公第九号 (三月二十三日接受)

大正六年三月九日

在海竜

分館主任 古 沢 幸 吉(印)

外務大臣子爵 本野 一郎殿

滿洲駐屯軍ニ對スル希望ニ就キ具申之件

我滿洲駐屯軍ハ定期ノ演習以外小部隊ノ行軍等隨時舉行被致居候処其出動ノ範圍ハ勿論戰術的意味ト輸送其他ノ關係

ニ由ルヘキナランモ概シテ鉄道沿線若クハ其附近地方ニ限ラレ從テ我軍隊ハ定期交代ニヨリ新陳代謝スルモ全体ヨリ見レハ常ニ同一地方ニ在テ多少規模ノ異ナリタル行動ヲナスニ過キス斯ノ如キハ軍事上余リ氣ノ利キタル処置トモ申サレ間敷何トカ当局者ニ於テ一工夫アリテ可然カト存候愚見ニ拠レハ今後此等軍隊ノ演習行軍等ハ其規模ノ大小ニ拘ハラズ事情ノ許ス限り可成之ヲ滿蒙内地ニ於テ舉行スルヲ得策ナリトスルニ有之即チ之ニ拠リテ各軍隊ハ其駐屯期間ヲ利用シ一般軍人ヲシテ親シク滿蒙内部ノ実情ニ関スル知識或ハ概念ヲ体得セシメ而シテ其間自然地方ノ風物ト相馴致シ又地方人民ヲシテ我軍隊ノ如何ナルモノカヲ了解セシメ之ニ對シテ一種ノ親ミヲ感セシメ置クコトハ一面有事ノ日ニ於テ便益鮮少ナラサルノミナラズ他面我壯丁中ニ滿期除隊ノ眺滿蒙移住ノ希望ヲ抱カシムル有力ナル動機タルモノニシテ現ニ当方面居住邦人ノ十中八九カ日露戰役ノ從軍者若クハ一度渡滿シタル予後備軍人ナルノ事實ニ徴スルモ這般カ決シテ架空ノ言ニアラサルヲ知ルヘク邦人ノ扶植發展上間接的奨励策トシテ又効力ノ偉大ナルヲ認ムル次第ニ有之候往年我開原守備隊ノ一部カ西安東地方ニ行軍シタル

コト有之今當時ノ模様ヲ聞クニ最初地方ノ支那官民ハ我カ軍隊ニ對シ驚異ノ眼ヲ放チ一般ニ疑懼ノ念ニ驅ラレ居タルモ我軍隊ノ過クルトコロ規律嚴肅ニシテ秋毫無犯スナキヲ視テ之ヲ乱暴極マル自國軍隊ト對比シ彼等ノ間ニ我ニ對シテ畏敬信頼ノ念深ク萌芽シ最モ良好ナル印象ヲ留メタルハ言フマデモナク從來同地方在留本邦人ニ對シ圧迫排斥ヲ事トシタル支那官民ノ態度モ之カ為メ全ク一變シ爾來其居住營業上ニモ多大ノ便宜ヲ受クルニ至リタル趣ニ有之候右ハ單ニ當地方ノ見聞ニ過キサルモ之ト同様ノ事實ハ他ノ滿蒙各地ニモ多々可有之乃チ我軍隊ノ奥地出動ニハ直接間接ニ多大ナル利益ノ相伴フ次第ニ就テハ右事情篤ト御稽査ノ上其筋ニ對シ卑見相通シ候様可然御取計相成ル様致度此段及具申候 敬具

五八六 三月二十三日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ 本野外務大臣宛

我守備隊使用ノ中國人家屋賃代料増額ニ関シ

報告ノ件

機密送第二六号 (三月三十日接受)

大正六年三月二十三日

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五八七

在鄭家屯

副領事 岩 村 成 允(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

鄭家屯守備隊營舎ニ関スル件

本件ニ関シテハ一月十七日付機密第八号前段ヲ以テ詳細及報告候通り當時関東都督府陸軍經理部後藤主計正來館ノ節一ヶ月数百元ハ家賃ニ相当スル家屋ニ対シ守備隊ヨリ僅々二十五元五十仙ヲ支払ヒ居ルハ穩当ナラザルガ如キヲ以テ今後永ク守備隊ヲ置カレ該家屋ヲ使用セラル、場合ニハ相当ノ家賃ヲ支払ハル、方可然旨申置キ候処今回右ニ関シ関東都督府ヨリ一等主計平田為次外二名ヲ当地ニ派遣スルコトトナリ一行ハ本月二十日來着シ守備隊長トモ協議シ家屋ノ実地調査ヲ行ヒタル上相当ノ家賃ヲ支払フコトト相成遼源県知事、商務會長等ニ対シ協議ノ結果現在ノ守備隊營舎ハ手狭マニテ馬糧等ヲ入ルヘキ場処ナキヲ以テ物置二棟ヲ新築セシメ又客年鄭家屯事件以來隔離病舎トシテ万源當ノ家屋ノ一部ヲ無料ニテ徵發シ置キタルモノハ之ヲ家主ニ返還スルコトトシ一ヶ月金百九拾円宛家賃トシテ支払フコトト定メ本年四月以降之ヲ実行スルコトニ二十二日相談纏リ

趣敬承就テハ直ニ別紙写ノ通り外交部ニ通知致置候間左様御承知相成度此段回答申進候也

本信写送付先 安東領事、関東都督

(附屬書)

三月二十七日在中國林公使ヨリ伍外交總長宛書翰写

第六〇号

拝啓陳者本年四月下旬ヨリ五月ニ亘リ実施スヘキ滿洲駐屯師団ノ交代輸送ニ際シ遼陽以北ニ駐屯スル歩兵二個聯隊ハ南滿洲鐵道並ニ朝鮮鐵道ニヨリ駐屯地釜山間ヲ往復輸送スル予定ナルニ就テハ軍用列車ノ直通運輸上日支國境ヲ通過

五七四

支那側モ満足ヲ表セル由ニ有之候右ノ結果從來損失ヲ受ケ居タル全市支那商人ノ不平ヲ除去スベク時節柄最モ當ヲ得タル処置ト思料致サレ候

右及報告候 敬具

写送付先 在支公使 奉天總領事

五八七 三月二十八日

在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛

我滿洲駐屯師団交代輸送ニ際シ軍用列車ノ日
中國境通過ノ直通運輸ヲ為スベキ旨中國政府
ニ通知ノ件

附屬書

三月二十七日付在中國林公使ヨリ伍外交總長宛

書翰写 右ニ関スル通知文

機密第一一一号

(四月二日接受)

大正六年三月廿八日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

滿洲駐屯師団交代輸送ニ関スル件

本件ニ関シ三月十九日附政機密送第五一号ヲ以テ御申越ノ

スルコト、相成ヘキ趣ヲ以テ陸軍省ヨリ照会ノ次第有之候ニ付明治四十四年十一月二日(宣統三年九月十二日)國境列車直通運輸ニ関スル日清協約ニ基キ右支那當局者へ通知方本国外務大臣ヨリ訓令有之候間茲ニ及御通知候ニ付右御承知相成度此段申進候也

大正六年三月廿七日

林 公 使

伍外交總長宛

八 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 五八七

五七五